

第1学年 国語科学習指導案

書式は学校の指定に合わせて調整してお使いください。

日 時 令和 年 月 日 () 第 校時
場 所
指導者

1 単元名

「ふねのせつめいをよもう」 教材名「いろいろなふね」

2 単元の目標

船の役目とつくりを対応させ、事柄の関係や説明の順序を理解できる。船の役目とつくりを捉え、説明に必要な重要な語や文を考えて選び出せる。言葉の働きを確かめ、友達との交流を基に自分の学習を見直そうとする。

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①船の役目とつくりを対応させ、事柄の関係や説明の順序を理解している。（〔知識及び技能〕(2)ア）	①「読むこと」において、船の役目とつくりを捉え、説明に必要な重要な語や文を考えて選び出している。（C(1)ア・C(1)ウ）	①学習の見通しをもち、単元で確かめたいことに進んで取り組み、友達の言葉や自分の記録を基に、読み方・表し方を見直そうとしている。

4 指導上の考察

（1）単元について

船の役目と、そのためのつくりを対応させて読む。船の名前に加え、何をするために、どんな特徴があるかを説明する大事な言葉を選ぶ。学習指導要領のC(1)ア・C(1)ウを中心に据える。関連する知識・技能として〔知識及び技能〕(2)アを、言語活動の中で確かめる。

（2）児童について

（学級の子どもの様子を先生が書く）

（3）指導について

「すること」「そのためのつくり」を上下に並べ、関係する言葉を線で結ぶ。見た目の予想は予想欄に置き、本文で確かめた言葉と分ける。おおむね満足できる状況は、船の役目とつくりを捉え、説明に必要な重要な語や文を考えて選び出しているという姿で捉える。語句や本文を示さず結論だけ述べる場合は、根拠を確かめる支援を行う。発言の回数や記述の長さでは判定しない。

5 指導と評価の計画（全7時間）

次	時	学習活動	評価規準（評価方法）
第1次	1	○全文を読み、船について知っていることと知りたいことを話す。	学習状況を見て支援する。

次	時	学習活動	評価規準（評価方法）
第2次	2～3	○船ごとの役目とつくりを読み、表に整理する。	知①（語句や内容の整理）
	4 （本 時）	○役目とつくりの関係が伝わる大事な言葉を選んで説明する。	思①（発言・学習記録）
	5	○別の船の説明にも同じ読み方を使い、違いを確かめる。	学習状況を見て支援する。
	6	○船の説明カードを書き、聞き手に仕事とつくりが伝わるか確かめる。	学習状況を見て支援する。
第3次	7	○紹介カードを交流し、大事な言葉を選んだ理由を振り返る。	態①（学習前後の記録・振り返り）



6 本時の指導 (4/7)

(1) 本時の目標

船の役目とつくりを捉え、説明に必要な重要な語や文を考えて選び出せる。

(2) 学習過程

段階	学習活動 (○主な発問) ・予想される児童の反応	指導上の留意点 (◎評価)
導入 (分)	本時に使う教材・前時までのノートを確認、自分の最初の考えを短く書く。 ○「この船は何をする船ですか。その仕事のためのつくりが伝わるのは、どの言葉ですか」 【めあて】船の役目と、そのためのつくりを対応させて読む。 〈予想される児童の反応〉 ・仕事の説明と、船のつくりの説明は別に書かれている。	本時に考える対象を確認し、既に確かめたことと、今日確かめたいことを分ける。児童の最初の言い方を残し、まとめて比べられるようにする。
展開 (分)	○「この船は何をする船ですか。その仕事のためのつくりが伝わるのは、どの言葉ですか」 自分で言葉や本文の箇所を確認、理由を添えて考えを書く。ノートを示して説明し、聞き手は確かめたところと、まだ確かめたいところを返す。全体では考えが分かれた箇所を取り上げ、何を根拠にしたかを比べる。 〈予想される児童の反応〉 ・仕事の説明と、船のつくりの説明は別に書かれている。 ・このつくりがあるから、その仕事ができる。 ・名前だけでは他の船との違いが伝わらない。	「すること」「そのためのつくり」を上下に並べ、関係する言葉を線で結ぶ。見た目の予想は予想欄に置き、本文で確かめた言葉と分ける。 想定する難しさ：写真で目立つ特徴だけを選ぶ。役目とつくりを別々に覚え、関係を説明できない。 児童の考えを教師の想定した言い方にそろえない。理由が確かめられる考えは残し、根拠が異なるときはその違いを板書する。 ◎思① 船の役目とつくりを捉え、説明に必要な重要な語や文を考えて選び出している。(発言と学習記録)
まとめ (分)	【まとめ】今日確かめた言葉や表現と、それによって確かめたことを対応させて自分の言葉でまとめる。 学習前の考えと比べ、付け加えたこと、残したこと、その理由を記す。 〈予想される児童の反応〉 ・友達の考えを聞いて、自分の理由を詳しく説明できた。 ・名前だけでは他の船との違いが伝わらない。	まとめの文を先に与えて写させず、児童が本時に扱った実際の言葉を入れる。書くことが難しい場合は口述を記録する。次の学習では、その記録を使って紹介や説明の文章を直す。 ◎態① (学習前後の記録と、見直した理由)

(3) 板書計画（縦書き・右から左へ）

右端に題名と本時のめあて。その左に問い「この船は何をする船ですか。その仕事のためのつくりが伝わるのは、どの言葉ですか」。中央は根拠となる言葉・本文の箇所と、そこから考えたことを上下に対応させる。根拠の本文は先生が教科書から書き入れる。中央から左に児童の考えを並べ、同じところを囲み、違いの理由を線で結ぶ。左端に、本時で確かめた実際の言葉を含むまとめと、考えを見直した理由を書く欄を置く。縦書きで右から左へ学習の順をたどれるようにする。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」 (@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

